

令和3年度実践事例報告書

学校番号	農01	学校名	秋田県立増田高等学校	担当教員名	藤井 亨
ねらい (○印)	a 知財の重要性 b) 法制度・出願 c) 課題解決（創造性開発・課題研究・商品開発等） d) 地域との連携活動 e) 人材育成（学習意欲向上、意識変化等） f) 学校組織・運営体制				
関連法 (○印)	a) 特許・実用 b) 意匠 c) 商標 d) その他（ ）				
年間の取組内容	実施時期	該当する要素の番号		知財学習の要素	
①農業科学科集会	4月	(1)(4)	1. 創造 創造し表現する 体験	✓	(1)創造性を鍛える
②産業財産権テキスト学習	7月	(1)(2)(12)		✓	(2)情報を利用する能力
③農業機械・器具の知財調査	7月	(8)(11)		✓	(3)発想・技術を表現する能力
④校内パテントコンテスト	7月	(1)(2)(3)(10)		✓	(4)観察力を鍛える
⑤J-PlatPatによる探索学習	8月	(2)(7)			(5)技術を体系的に把握する能力
⑥ケーススタディ形式学習	8～11月	(10)(12)	2. 保護 財産として保護 ・尊重する意識	✓	(6)商品や社会とのつながりの理解
⑦J-PlatPatによる調査	8～11月	(2)(3)(6)(10)		✓	(7)保護・尊重する意識
⑧農業体験交流学习	11月	(6)(7)(10)(11)		✓	(8)技術等と権利の対応関係を把握する能力
⑨克雪パテントコンテスト	12月	(1)(2)(3)(10)			(9)手続の理解
⑩校内研究発表会	1月	(3)(6)(10)(11)	3. 活用 社会で活用する 知恵と行動力	✓	(10)権利を活用する能力
				✓	(11)産業や経済との関係性の理解
			4. 知識 社会制度の理解	✓	(12)制度の学習
					(13)専門家、資格制度の関する知識
令和3年度末における取組目標の達成見込	A	ほぼ達成(9割以上)	判 断 理 由	・学科全体として継続的に知財学習が取り入れられるようになったことで、生徒が知財の意義を理解し、知財を保護しながら活用しようとする意識が高まった。 ・新型コロナウイルス感染症拡大のため、知財先進校等における県外研修が実施できなかった。	
	B	概ね達成(7割以上)			
	C	やや不十分(5割以上)			
	D	あまり達成できていない(5割未満)			
実施方法	<input type="checkbox"/> 全校で実施 <input checked="" type="checkbox"/> 教科・学科で実施 <input type="checkbox"/> 特別活動で実施 <input type="checkbox"/> その他()				
本取組の状況 (なるべく具体的な数値やコロナ禍での取組等を含めて記載をお願いします)	・知的財産学習推進委員会の設置と月1回ペースでの農場部会開催により、知財学習の実施状況を確認した。4年目となり、教務部をはじめとして他分掌からの支援体制も十分であった。 ・知財に関する新聞記事や実物等を活用し、知財を保護・活用しようとする意識の高まりが図られた。 (写真2・写真3・写真4) ・アンケート結果によると、知財学習を通して意識が向上した。特に、知財を「よく意識している」と答えた生徒の割合が26.7%→60.0%に向上した。(グラフ1)				
最も重視した取組又は成果のあった取組等 取組番号 [⑧]	成果内容	・秋田県新規ブランド米「サキホコレ」の試験栽培に地元小学生とともに取り組み、最終回の交流学习では高校生が指導役となって、ブランドの保護・活用の内容を含めたグループ協議を実施した。(写真5)			
	生徒・学生に見られた変化	・交流学习の事前準備において、商標権に基づいたブランド保護・活用のあり方に関する議論が深まった。 ・小学生への指導を通して達成感・成就感を得た。			
	その根拠	・アンケートの結果、この学習が今後「大変役立つ」「役立つ」と答えた割合が33.3%→77.8%に向上した。(グラフ2)			
今後の課題	・知財を「説明できる」生徒のさらなる増加。 ・教員の知財教育に関する研修の不足。				
課題への対応	・知財教育に関する教員研修を定期的実施し、教材研究・指導方法を工夫・改善する。 ・県外知財教育先進校での視察を実現し、委員会へ情報提供する。				

「本資料内の写真、イラスト、引用文献等の承諾が必要なものにつきましては、権利者の承諾を得ていることを申し添えます。」

<写真・図表等掲載欄>



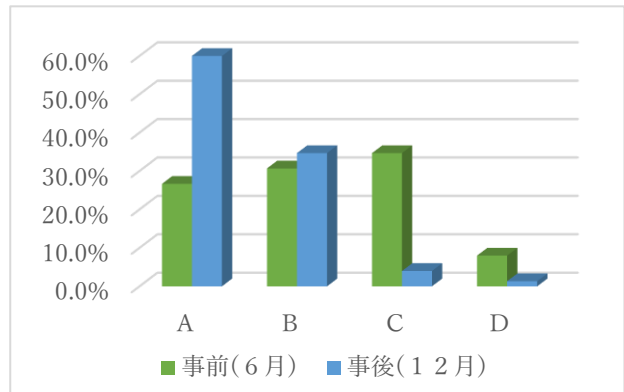
(写真1) アドバイザーによる授業 (写真2) 新聞記事等を活用した学習 (写真3) 実物を活用した学習



(写真4) 産業用無人機(ドローン)から知財を探る (グラフ1) アンケート結果抜粋(指導前後の比較)

Q 知財を意識しているか。

- A : よく意識している
- B : 意識している
- C : 努力している
- D : 意識しない



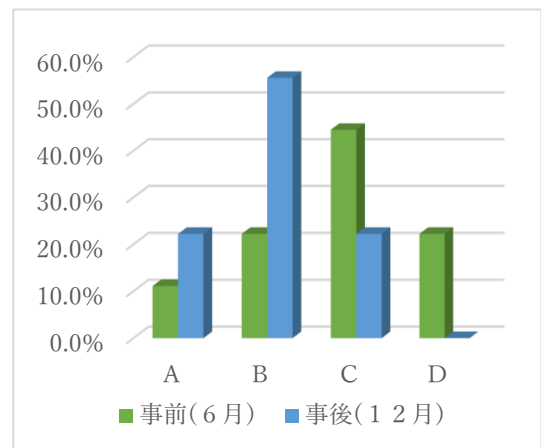
秋田県新規ブランド米「サキホコレ」を活用した地元小学生との交流学習について



(写真5) ブランドの保護・活用について協議

Q サキホコレのブランド化の学習は
今後役に立つか。

- A : 大変役立つ
- B : 役立つ
- C : 多少は役立つ
- D : 必要ない



(グラフ2) アンケート結果

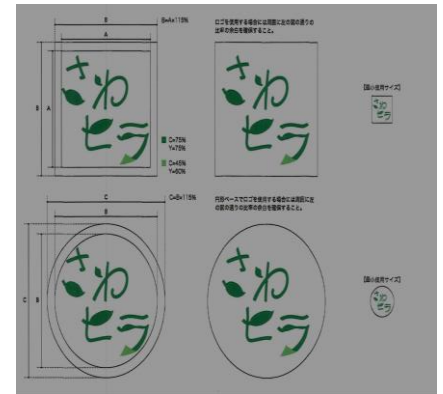
<写真・図表等掲載欄>



(写真1) ダリアの観察



(写真2) ニオイ木の商品化



(図1) ニオイ木商標



(図2) ダリア切り花商標



(写真1) 校内セミナー（商標について）

「ダリアの高品質栽培と商品化」と「ニオイ木の増殖と機能性素材の商品化」の取組について

地域資源植物である「ダリア」と「ニオイ木」の栽培から商品開発と商品化を図るために必要なラベル等の商標デザイン作成の取組から知的財産権について学んできた。ラベルデザインの作成だけではなく、本校が位置する山形県川西町の花であるダリアと空気浄化力が認められたニオイ木(クサギ)の栽培と活用を図る商標づくりをとおして、地域の農家や造園業を営む方々と交流が生まれ、そこから学ぶことが多くあった。ひとつのアイデアを形にする創作活動と作り出されたものの完成度を高め商品化を図る過程において、商標等の知的財産権の大切さを学ぶことができた。

今後の課題	知財の要素が創造に偏っているので保護や活用にも焦点を当てる必要がある。
課題への対応	知財を扱う科目を設定する必要がある。 教員の指導力向上

「本資料内の写真、イラスト、引用文献等の承諾が必要なものにつきましては、権利者の承諾を得ていることを申し添えます。」

<写真・図表等掲載欄>



図1. 取組3で開発したオリジナルソース



図2. 取組5で実施した池田炭体験の様子



図3. 新商品開発



図4. 開発した商品の箱詰めをしている様



図5. 開発した商品を販売する様子

取組1で開発した新商品の紹介

- ①イチゴバタージャム：本校産イチゴとバターを融合させた
- ②べっぴんプリン：大阪産の卵を使用した卵が主役のプリン
- ③#俺のイモパン：本校産サツマイモをオリジナルあんにした新感覚
- ④メロンパン：ヨーグルトとチーズを加えたしっとりパン
- ⑤スタンドグラスクッキー：形と見た目の獨創性で勝負